

令和4年(2022年)1月1日発行

2022年 年頭の辞

「〇〇原理主義」を越えて

新しい年を迎え、コロナ禍が始まって間もなく2年が過ぎようとしています。この稿をしたためている11月末現在、日本は人口1億万人以上の国で、直近7日間の人口あたりの感染者が中国を除くと最少、という幸運の中にいます。一方で、欧州は日本の約千倍を数えるドイツをはじめ感染が急拡大しています。

昨年は、アフガニスタンでイスラム原理主義勢力が政権を把握、EUでは今も難民問題に揺れています。また、華夷秩序の樹立を自論する大國の動きに、世界の国々は翻弄されつつあります。そんな激動の時代にもかかわらず、日本ではコロナ対策の給付金といったポピュリズム的な報道ばかりが目につきます。コロナ禍

テクノロジーは止まらない

2022年を迎えました。コロナ禍は2年を経ても未だ終息しません。不自由な学生生活がいつまで続くのか。今年こそはアフターコロナとなるのか、世界の流行動向が気になります。

昨年はなおも動きつらい環境にあって本学は、日々の授業においては積極的な対面授業を導入し、一部オンラインでの講義とを、それぞれに安全かつ充実した学びとなるよう取り組んで参りました。また、オンラインの良さを生かし、これを取り入れる事によって、教育のさらなる進化も期待出来ます。

大学外へのオンラインによる発信や交流では、インドの工科大学の日本語を学ぶ学生との研究紹介や、学

は、DXの遅れをはじめ、日本社会に巣食う様々な現実を暴き出した、そんな感を強くした1年でした。インターネットの普及は情報格差をなくし、民主的で多様な社会を招くと喧伝されましたが、確証バイアスによるエコーチェンバーとフィルターバブルに多くの人が陥り、寛容性が益々失われ、同調圧力とも相まって、社会が色々な意味で「原理主義」に染まりつつある気がします。

例えば、SDGsというのは本来、複雑な社会問題に対して総合的な視点で解決策を考えるというのが主旨であるはずなのに、「環境原理主義」と揶揄されるバランスの欠いた議論が跋扈しつつあります。まさに正義という名の「思考停止」状態です。

生による子ども向けのロボット工作教室を開くなど意欲的に実施されました。さらに、VR動画の岡本太郎美術館での公開も好評でした。そして、宮代町、春日部市でのワクチン接種予約を学生が手伝っています。本学は数々の新たなチャレンジを展開しています。データサイエンス学科の新設もまた、その一つといえるでしょう。それは、社会課題の解決、新たな提案を、データをもとに提示するものです。



学長 成田 健一

私たちが目指すべき「豊かな社会」とは何か、もう一度考える必要があると思います。本学は、建学の精神・理念に基づく教育目的として「一人々の幸福のために自ら考え行動することが出来る」ことを謳っています。その実現に向けて、教学マネジメントをどう具現化していくのか、大学構成員一人ひとりの俯瞰力・洞察力が、あらためて問われています。今春、いよいよデータサイエンス学科がスタートします。これからの社会で広範に実装されていくAIも、教師データとして何を学ばせるかで答えは変わってきます。真に人々の幸福に寄与するデータ活用教育を展開できるか、本学のあらたな実工学教育へのチャレンジが始まります。



理事長 柳澤 章

も、いや、そうであるからこそ、技術革新は進みます。DX(デジタルトランスフォーメーション)もロボットも、電気自動車へのシフトも、再生可能エネルギー開発も、医薬品開発も、まちづくりも、どれもが一瞬たりとも休むことなく世界中で猛烈なスピードで走り続け、新しい世界を切り拓こうとしています。とはいえ、技術は進むに任せてい

「安全教育の日」制定 大学における安全教育とは

本学は安全に対する意識、安全教育の推進を大学全体で毎年確認していくことを目的として、11月6日を「安全教育の日」と定めた。第1回目の取り組みとして11月11日、学友会館並びに学内ライブ配信において、全教職員を対象とした講演会を開催した。

前半は私立大学情報教育協会会長を務めるなど、安全学の専門家として著名な向殿政男氏を講師に招き「安全に関する基本的な考え方」をテーマに講演を行った。向殿氏は安全を「リスクが許容可能な水準に抑えられた状態」と定義。「絶対安全、すなわちリスクゼロはあり得ないが、事故ゼロはあり得る。そこを目指すべきだ」と力説した。その上で、事故を未然に防ぐためのリスクアセスメント、3段階でリスク低減に備えるスリッパステップメソッドなど、理工系学生が知っておくべき安全に関する常識について説明した。

大学における安全教育としては「教養としての安全」「安全の基礎概念」「専門分野の安全学」の3つの修得が必要と説明した。全学生に対し安全の基礎を徹底させた上で、各学科において専門の安全技術を修得させるべきと強調。「理工系学生は安全の基礎、安全設計・技術の修得に主体的に取り組み、利用者に対し安全確保の意識を持つことが大切。常に原点を忘れず、見直し、前進してほしい」と締め括った。向殿氏の講演内容は後日アーカイブ配信され、多くの学生が視聴した。後半は機械工学科による安全への取り組みを紹介した。(4面に記事掲載)



向殿(むかいどの)氏は鉄道総合技術研究所会長も務める

日本工業大学 学部 2022年度入試日程
[基礎工学部]機械工学科/電気電子通信工学科/応用化学科 [先進工学部]ロボティクス学科/情報メディア工学科/データサイエンス学科 [建築学部]建築学(建築コース/生活環境デザインコース)
入試種別 日程
一般選抜入試 出願期間 1/7(金)~1/21(金) 一般選抜入試B 2/5(土)~2/17(木)
試験日 1/29(土) 本学・宇都宮・高崎・柏・東京・郡山・千葉・横浜・新潟・長野・名古屋 1/30(日) 本学・宇都宮・高崎・柏・東京・仙台・水戸・静岡 2/22(火) 本学・東京
1/31(月) 本学・東京 2/1(火) 本学
一般選抜入試英語外部試験利用 出願期間 2/5(土)~17(木)
試験日と試験会場 2/22(火) 本学・東京
共通テスト利用入試 共通テスト利用入試A 共通テスト利用入試B 共通テスト利用入試C
出願期間 1/7(金)~2/3(木) 2/5(土)~2/18(金) 2/21(月)~3/10(木)
出願期間 3/1(火)~3/10(木)
試験日と試験会場 3/12(土) 本学
3月入試
総合型選抜入試 出願期間 2/14(月)~3/1(火)
1次審査結果通知 3/7(月)
2次審査日と試験会場 3/12(土) 本学
【入試チェックポイント】
①特別入試奨学金給付！1年目の授業料全額相当(98万円)または、半額相当(49万円)を免除！昨年実績48名！【一般選抜入試A】
②入試奨学金20万円給付！充実の奨学金制度。昨年度実績324名！【一般選抜入試と共通テスト利用入試の成績優秀者】
③完全インターネット出願 同時出願併願制あり！【一般選抜入試・共通テスト利用入試】
④全国14ヶ所試験会場 地元で受験できます【一般選抜入試A】
⑤2月・3月に受験できます【一般選抜入試・共通テスト利用入試・3月入試・総合型選抜入試】
●各入試の詳細はそれぞれの「募集要項」でご確認ください。
●入試に関する説明や対策講座をWEBオープンキャンパスに掲載しています。詳細はQRコードからご参照ください。
お問い合わせ先 TEL.0120-250-267(入試室) URL https://www.nit.ac.jp

本学で先端技術研究の取り組みを
社会人大学院生 募集 (日本工業大学大学院 社会人特別選抜)
◆大学院工学研究科
博士前期課程・博士後期課程
*環境共生システム学専攻 *機械システム工学専攻
*電子情報メディア工学専攻 *建築デザイン学専攻
■2022年度 大学院 社会人特別選抜入試日程
日程
出願期間 面接試験 合格発表 手続締切
二次募集 2022年2月7日(月)~2月16日(水) 2月24日(木) 3月4日(金) 2022年3月10日(木)
お問合せ先: 教務部教務課 大学院入試係 TEL 0480-33-7507 URL https://www.nit.ac.jp

日本工業大学 専門職大学院(大学院技術経営研究科技術経営専攻)
中小企業技術経営コース/プロジェクトマネジメントコース/起業・第二創業コース/中小企業診断コース
働きながら学べる専門職大学院 第18期生 募集!
■2022年度 専門職大学院 入試日程
日程
出願期間 試験日 合格発表 入学手続締切日
第2回募集 12月20日(月)~1月5日(水) 1月16日(日) 予備日:1月15日(土) 1月21日(金) 1月31日(月)
第3回募集 1月31日(月)~2月7日(月) 2月20日(日) 予備日:2月19日(土) 2月25日(金) 3月7日(月)
願書のご請求およびお問い合わせ先:
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 日本工業大学 専門職大学院
TEL: 03-3511-7591 FAX: 03-3511-7594 メール: mot@kanda.nit.ac.jp

第53回若杉祭開催

テーマは「挑」。コロナ禍からの再挑戦。

10月30日・31日、2年ぶりに本学の大学祭「若杉祭」が埼玉キャンパスにおいて開催された。感染防止対策のため、参加は学生と学内関係者に制限された。屋外ステージでの音楽系団体ライブや各種イベント、本館教室での各団体の活動成果の展示、アーティストライブ、声優トークショーはほぼ通常通り実施。模

擬店や子供向けイベントの出展は見送られ、本来の賑わいが感じられなかったが、学生は限られた条件の中で各々楽しんでいった。大学祭実行委員会の内藤委員長は「一昨年、学生は本来の若杉祭を体験できなかった。今回から再スタートし、新たに挑戦していく意気込みをテーマに込めた」と話してくれた。



音楽団体による野外ライブ



研究成果の紹介



学生、教職員の作品を展示した「秀麗展」



学生自治会中央執行委員会委員長 就任挨拶

基幹工学部電気電子通信工学科3年 (福島県立福島工業高等学校出身) **高橋 優真**

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

この度、第54期中央執行委員会委員長に就任いたしました。高橋優真と申します。長い歴史を持つ学生自治会の代表に就くことになり、非常

に光栄であると同時に、重責に身が引き締まる思いでございます。これまで私を支えてくださった皆様方には心よりお礼申し上げます。今後は学生自治会の代表として、先代方から引き継いだ大学を皆様により有意義で過ごしやすいよう、に微力ながらお手伝いいたします。その為にも、皆様の意見を取り入れる事は極めて重要なことです。学生自治会をより活発的にし、更なる発展を目指し、中央執行委員会は努力して参ります。

最後にになりますが、日本工業大学と学生自治会の一層の繁栄を祈念し、中央執行委員会委員長の就任挨拶とさせていただきます。

デジタルEMS制御装置 公開実証試験開催

この実証事業は、「令和3年度埼玉県デジタル技術活用製品開発費補助金事業」が支援する。カーボンニュートラル社会に向けた多様な技術開発のうち、中小規模の事業所内を想定し、域内太陽光発電や蓄電池、電気自動車(EV)などの複合的なエネルギー利用の消費量削減と平準化を狙いとするクラウド型EMS(Energy Management System)技術を開発することを目的に行われる。また、受電設備の容量に応じ、給電量の制御により、契約電力を更替することなく低コストで効率的に導入できるEV充電器制御システムの開発も目指す(実証期間は11月29日〜12月3日)。



社会実装が進むEV充電制御

本学は太陽光発電設備(500kW)と工業技術博物館の変電設備などフィールドを提供。また、電気電子通信工学科の竹本泰敏助教が技術協力を行った。11月29日の本実証試験説明会は、多くの招待者と報道陣を前に成田学長の挨拶で始まった。参加学生は、大学で学ぶ基礎知識の基、新技術のEVチャージャー制御を見学。本システムの社会実装における課題などを熱心に学んでいた。

日本最大級の環境展示会 エコプロ2021出展

今年度のエコプロは新型コロナウイルス感染症対策の緩和措置で対面開催が復活。12月8日から10日の3日間、東京ビッグサイトを会場に開催された。



SDGs関連活動も紹介

本学は、今年度初めて取り組んだ学生有志による「SDGsキャンピングin工大」(SDG-12関連の食料廃棄物削減に向けたワークショップ)や新潟の学生環境団

「学食の食料廃棄物削減策」提案書提出

提案の実現に向け、具体策に取り組んでいる。



学生が行う「SDGsキャンピングin工大」では、SDG-12(つくる責任、つかう責任)の視点で、6月からワークショップ(WS)を開催、今回のアンケートもその一環。このアンケートでは、廃棄物削減に加え健康管理、利用率向上の観点からも広く意見を求めた。回答者は146名。当WSではアンケート結果をもとに、食料廃棄物削減を中心とした解決策を提案書としてまとめ、食堂を運営するNITクリエイトと協議を行った。現在、

就職支援情報

就職活動は長期戦。就職支援課を上手に活用しよう

昨年、一昨年とコロナ禍の影響で低迷した日本の産業界であったが、理工系の大卒内定者数は増加した。デジタルトランスフォーメーション(DX)を担う理工系人材のニーズが高まり企業の採用意欲は回復傾向にある。そのような中、学部3年生の就職活動が水面下で始まっている。企業は、夏のインターンシップや就職イベントに参加した学生に対して早期選考への声かけを行っており、優秀な学生の獲得に動き出した。また、学生もこの機会を逃すまいと選考準備に余念がない。このような状況を鑑み、本学では11月にJRE(東日本、大林組、富士電機など)日本を代表する大手企業100社以上を学内に招き、「業界・業種セミナー」を開催した。参加者は、一昨年とほぼ同等であり、約半数の学生が参加した。この企業との出会いから動き出す学生も多く、年明けからフル回転で就職活動に挑むことになる。さらに、春休みの2月には卒業生との繋がり深い企業約50



面接集中練習会の指導

0社を招き、8日間に及ぶ学内合同企業説明会を実施する。卒業生による企業情報や仕事内容の説明もあり、働き方を身近に感じることができ、貴重な機会となる。3学

年時に開催された「就職支援ガイダンス」の中で「履歴書集中添削会」や「面接集中練習会」等の講座で学んだことを活かして、希望する企業の説明会に積極的に参加することを薦める。就職活動を乗り切るためには「最後まで諦めない」という強い信念を持つことが必要となる。会社説明会、筆記試験、さらに面接等の段階を踏んで「内定」に至るまでの道のりは決して楽なものではない。そこを一緒に乗り越え支えていくのが就職支援課員の役割である。さあ、一緒に前へ。

専門職大学院より

DXを活用し変わるために

大学院技術経営研究科・准教授 小林 克

経営において「手段」と「目的」が入れ替わるとは往々にしてある。「わが社にもDXは必要ですか？」中小企業の現場において経営者からこのような質問を受けることがある。それに対して「御社では、なぜDXが必要だとお考えですか？」と私が逆に質問で返すと、「時代の変化に合わせて」「昨今メディアで多く取り上げられていて」「～」などと経営者からは曖昧な返答が返ってくる。DX(デジタルトランスフォーメーション)は2019年7月に経済産業省が出した「推進指標とそのガイダンス」によると、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズをモノに製品やサービス、ビジネスモデルを変革すると共に、業務そのものや、組織プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確認すること定議づけられている。平たく表すとデジタル技術で企業全体を変革するといふ定義である。経営は「攻め」と「守り」という要素に分けられるが、攻めのDXにおいては、デジタルマーケティングやプラットフォームの構築などに当っては、守りのDXにおいては、生産性を高めるアプリケーションの導入、総務・経理等のデジタル化などがあたる。具体的な事例を挙げると、飲食店において、店員が来店客に対して一般的に行っている注文やレジ決済作業を改め、来店客が自身でタブレット

専門職大学院 オープンキャンパス 1/22(土) 13:30-16:15 日本工業大学 神田キャンパス 会場

大学院紹介、模擬授業、パネルディスカッションなど
*予定変更となる場合があります。最新情報はウェブサイトをご確認ください
TEL. 03-3511-7591 mot@kanda.nit.ac.jp

工業技術博物館

工作機械専門図書・資料室
仮オープン記念企画展

日本の工作機械産業を支えた
名著と専門雑誌

本学工業技術博物館の
主催で、企画展「日本の
工作機械産業を支えた名
著と専門雑誌」が11月25
日から12月23日にかけて
開催された。本企画展
は、博物館が現在開設準
備を進めている「工作機
械専門図書・資料室」の
主要部を公開できる段階
になったことから、その
仮オープン記念として実
施された。



図書・資料室で興味深く書籍を探す参加者
博物館職員が平柳恵
作氏より図書・資料室
と企画展の概要説明
がなされ、その後、企
画展と図書・資料室の
見学会が実施され
た。さらに希望者は、
博物館の本館、S.L館
などを見学した。

初日には、副館長の二ノ宮進一教授から企画展開催に当たったの挨拶、博物館職員の平柳恵作氏より図書・資料室と企画展の概要説明がなされ、その後、企画展と図書・資料室の見学会が実施された。さらに希望者は、博物館の本館、S.L館などを見学した。参加者からは、散逸し、失われつつある

る工作機械関連の多数の貴重な書籍・資料が収集されている施設は国内外には見られず、大変貴重である。また、これらと併せて、博物館に一堂に収蔵・展示されている多種多様な歴史的価値の高い多数の工作機械を見学できることは素晴らしいと、高く評価された。博物館としては、歴史的に価値のある工作機械の美術とそれらに関連する図書・資料を併せて所蔵・展示する世界に類のない博物館として、さらに発展させていきたいとしている。

英語教育センター(ELC)

10年後の自分へ
英語でメッセージ

英語教育センター(ELC)では7月5日〜9月30日に英語学修イベント「Dear Future Me コンテスト」を開催した。このイベントは、2020年から開催している英語学習イベント(ELCチャレンジャー)の第4回の企画で、今回は、学生の皆さんに10年後の自分自身に思いを馳せ、未来の自分への期待やメッセージを英語で書いてもらう、という企画であった。過去のELCチャレンジャーと同様に、今回も素晴らしい作品が寄せられたが、その

TOEIC試験に
多くの学生が挑戦

10月16日と23日には就職支援課とELCのコラボレーション企画として、TOEIC I P(団体受験)が実施された。TOEICとは、就職活動で頻りに利用される英語の資格試験であるが、受験を入社必須条件とする企業の割合が急激に増えている。今年度からは、後援会から補助金も供出されたおかげで、通常の個人受験に比べ、格段に安い受験料で受験できるようになった。2020年10月の第1回は189名、昨年4月の第2



受験者は毎年増えている



受賞セレモニーで優秀作品を表彰

回は262名、同10月の今回は355名と毎回受験者が増えている。次回は本年4月で、今後毎年2回実施予定である。ELCでは、外国人講師が様々な形で受験をサポートしている。学生の皆さんは、ELCを存分に活用し、就職活動に備えて欲しい。

ビジネスプランコンテスト

社会課題解決から身近なテーマまで多彩な提案

11月1日、第16回ビジネスプランコンテストが学友会館ホールにて開催され、全260件の中からファイナリストに選ばれた8名がプレゼンテーションを行った。グランプリとなる学長賞に建築学科建築コース3年大石健斗さんの「あの場所へもう一度」が選ばれた。大石さんは、観客からの投票結果で決定するオーディエンス賞もダブル

受賞した。今年の高齢化・空き家問題等の社会課題の解決を目指すプランから、AIによる画像解析やドローン、EV(電気自動車)等の技術活用、またアートや植物育成など、暮らしに彩りを与えるプランまで幅広い内容であり、学内外の観客は熱のこもった発表を興味深く聞いていた。



賞	氏名(代表)	共同応募者	プラン名
学長賞	大石 健斗		あの場所へもう一度
NITEC埼玉産学交流会賞	北田 駿介		親切を創る
川口信用金庫賞	栗野 龍成		ARTiSTART
宮代町長賞	筑井 志音		～害獣による被害を防ぐ～ 畑見守りドローン
杉戸町長賞	高屋敷 洋仁		Go With a Smile ～人生100年時代の笑顔のために～
審査員特別賞	増田 康希		データベースストア Photosto
産学連携起業教育センター長賞	川田 雅弓		家庭で「緑」を感じよう!
優秀賞	陸 文軒	石崎 洋貴 姜 維康	機械式立体駐車場 EV チャージャーシステム
奨励賞	松林 史遠	川久保 統弥	サバイバルゲームの可能性
	齋木 玲旺		建築設計競技と事務所をつなぐマッチングサービス
	森 雄太		日射遮蔽を施した部活特化型熱中症対策テント
	生出 和己		NIT-myProgramming
	磯見 祐伸		ウィズコロナ時代のオフィス & カフェサービス
	岡田 将敬		ウォールアート型展示会場
	高橋 明里		テレ農
	田口 楓輝		服薬支援ロボット
知久 舜輔		何でもやりますサービス	
戸邊 青		旅館・ホテルの気分を家でも味わう	

観覧者による投票結果で決定する「オーディエンス賞」には、大石健斗さんの「あの場所へもう一度」が選ばれた。

人と暮らしの支援工学センター

「暮らしの支援とエンジニアの協働」
を新規開講



秋学期「暮らしの支援とエンジニアの協働」が開講した。人の暮らしの支援のために様々な立場の人と連携できるエンジニアになるため、人の暮らしに寄りそった態度やチーム形成の知識・技術を身につけることが目的とする。全学科1年生を対象とし、多岐にわたる学際・学際横断科目である。ゲスト講義を4回取り入れ、障がい者向け家具のデザイナー、障がいのある方と協働で展覧会を企画した学芸員、障がい当事者の方々、リハビリテーション病棟の医師に講師を依頼した。受講学生は障がいのある方への理解を深めるとともに、専門知識・技術で人を支援

できる可能性を感じた。後半の授業では暮らしの支援に関する実践や研究に取り組み上級生のプレゼンテーションに耳を傾け、学習動機を高めた。学びを共有するグループディスカッションを毎回行い、話しやすい環境づくりのスキルも上げた。他学科の学生との意見交換も好評だ。本学が目ざす「人に寄り添った実践的技術者育成に基盤を与える科目」として発展することが期待される。

教育改革シンポジウム 開催報告

第64回「授業における著作物の正しい利用法」
第65回「教職員のための声の出し方講座」

第64回と第65回にあたる教育改革シンポジウムを、9月30日と10月21日に、オンライン形式と会場での対面形式を併用する形で実施した。64回目のシンポジウム「授業における著作物の正しい利用法」のテーマは「授業における著作物の正しい利用法」に、国からの指定を受

「暮らしの支援とエンジニアの協働」

を講師に迎えて「著作権の知識とお作法」と題して、著作物の引用や複製などに関する講演が行われた。



講師の小山氏は出版界の第一線で活躍

当日は会場での直接受講とオンライン受講を合わせて170名程度の参加者があり、講演後の質疑も活発なやり取りがなされた。会場・オンラインあわせて160名ほどの参加者を得た65回目のシンポ

当日は、講演に加えて

辻村教務部長をはじめとする4名の本学教職員が登壇して、高山氏による直接の発声指導も行われた。登壇した教職員それぞれが発声の「強み・弱み」に合わせた高山氏の的確な指導は、オンラインで受講した参加者にとっても、きわめて有意義なものとなった。

高山講師から母音法の指導を受ける辻村教授

コロナ禍の学習を支える
教室の換気システム

本学ではコロナウイルス感染症対策として様々な取り組みを継続している。今回は授業で使用される教室の換気システムについて紹介する。多目的講義棟(5号館)の大教室(300名収容)ならびに一般教室(100名収容)には2018年度より最新の空調設備が導入されている。室内と屋外の温度・湿度を比較し、環境変化に応じて自動的に空調を停止して自然換気に切り替わる仕組みである。このシステムは省エネのみならず、効率的な換気にも貢献している。また、機械換気システムでは各教室内に設置されているCO2センサーによって室内のCO2濃度を検出し、外調機で温度調整された新鮮な空気をCO2濃度の設定値に近づきように吸気風量を制御する。CO2の設定濃度は通常で800ppmであるが現状は感染対策として外気に近い500ppmに設定し、安心できる学習環境づくりに努めている。

工房教育活動紹介

フォーミュラ工房

企画・設計・製作・走行を一貫してチームで行う

工房では競技用車両を毎年製作し、学生フォーミュラ日本大会への参加を続けている。今年度は車検と動的審査が中止となり、プレゼンテーション、デザイン、コストの静的種目のみで競われた。一部書類の

提出遅れの影響等で60チーム中33位と不本意な成績に終わったが、これを教訓として来年度に活かしてほしい。なお、チームは10月30日に静岡で開催された公式記録会に参加し、好タイムで全種目を完走した。



走行前のピット作業



疾走するフォーミュラカー

木造建築工房

靴を脱いで寛げる木造休憩所が完成

工房では建築の企画、設計、施工を一貫して行い、毎年小規模建築を学生自ら建設する。昨年4月から、学生は4グループに分かれて設計案を検討。協議の結果、グラウンド脇の土手に休憩所を建設する案が選出

された。長方形の平面、切妻屋根というシンプルな構成で、建物外周まで広がる床は座敷のように靴を脱いで寛げる。9月上旬から履修学生全員によって建設作業が行われ、11月6日に竣工した。



履修学生全員で建設作業



竣工した休憩所



秋間さん(右)と鈴木さん

東京建築士会住宅課題賞 優秀賞1等、審査員賞

建築学科の学生が10月30日、東京建築士会が主催する第21回「住宅課題賞2021」において、「優秀賞1等」「アストリッドクライン賞(審査員賞)」をそれぞれ受賞した。今年度は40

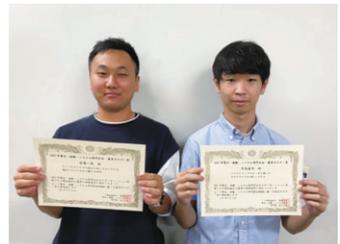
大学54学科(54作品)の参加があり、約4時間に渡って審査が行われた。

優秀賞1等を受賞したのは建築学科建築コース2年の秋間悠希さん。受賞作品名は「川辺の台所」で、川沿いの細長い敷地に料理や食事を通して地域の人と交流する小さな村を提案。地域の人と使用するシェアキッチンや渡り廊下で住戸同士をつなぐなど、村の動線全てが人々の交流の場となるように考案している。

アストリッドクライン賞を受賞したのは建築学科生活環境デザインコース2年の鈴木晴香さん。受賞作品名は「ひと繋がり」で、人々がお互いに存在を感じ合うことができるシェアハウスを提案。大きな箱を組み合わせた共有空間に小さな箱を組み込んで個人空間を確保したり、1階部分をまちに開くことで地域交流の場をつくっている。

増大の抑制を実現した。1年の安岡一晟さんが受賞したテーマは「インパルス」で、インパルスという言葉をヒントに、パルス状の音の混入に対してロボティックな適応アルゴリズムに関する研究。エコー・ノイズキャンセリングの動作の妨げとなる瞬間的な雑音の混入に対して、出力誤差信号の散らばり度合いを適切に制御する新しい処理アルゴリズムを提案し、消音性能の安定化を実現した。

騒音抑制の研究で 電気学会優秀ポスター賞



電子情報メディア工学専攻博士前期課程(木許研究室)の大学院生が9月15〜17日、富山県立大学でオンライン開催された2021年電気学会電子・情報・システム部門大会で「優秀ポスター賞」を受賞した。

2年の大高盛司さんが受賞したテーマは「パラメトリックスピーカを用いたマルチチャネルANCシステム」。騒音に対して逆の振動を持つ制御音を生成し、騒音の除去を行うアクティブノイズコントロール(ANC)において、指向性の極めて高い複数のスピーカで構成されるシステムを提案。ANC特有の問題である消音点以外での騒音

機械システム工学専攻博士前期課程2年(二ノ宮研究室)の大林翔さんが、砥粒加工学会優秀講演賞を受賞し、11月1日に表彰状と記念品が授与された。受賞研究名は「超音波ヘリカルスキャ」で、実際の研削結果と一致することを示した。



軸を傾斜させて超音波振動を複合させることで砥粒軌跡を制御する新しい技術を提案した。講演発表では、本研削法の有効性を明らかにするとともに、実際の研削結果と一致することを示した。

超音波振動の技術提案で 砥粒加工学会優秀講演賞

冒頭、機械工学科の中野道王教授が安全委員会設置の背景と経緯について説明。普通科出身者の入学増加に伴い機械や工具に不慣れた学生が増加し、かつてない不安全状態や行動が目立つようになったことから対策が急務となった。

委員設置にあたっては同学科全教員にアンケートを実施し、安全上の問題を洗い出した。結果を踏まえ、左記の2点を目的として2017年に委員会を設置し、活動を続けている。

実工学教育センターの石井治実助手が具体例として「安全の手引き」制作、新入生対象安全講習、同センター設備利用講習、研究室の巡回・相互点検などの事例を紹介した。今年度から、学生による安全活動の推進役

として研究室毎に学生安全委員を任命。安全活動ミーティングや研修を通じて、研究室間での情報共有、自主的な安全活動の計画・実施を担う。一方で、教職員に対しても安全研修を行い、「学生がケガをさせない」「学生がケガをさせない」ための役割と責任を明確化している。

安全に関する情報の共有化、活動の見える化 「安全」は多くの人が関心をもち、意識する環境づくりが大切である。学科

の目的・目標・手段を改めて解き明かします。 ※オンライン配信あり。詳細はお問い合わせください。

日時 1月22日(土) 14時〜16時 場所 コミュニティセンター 進修館ロビー 費用 無料(要申込) 講師 千金亭直千金氏 申問 宮代町人権推進室 34・1111内線 210

冒頭、機械工学科の中野道王教授が安全委員会設置の背景と経緯について説明。普通科出身者の入学増加に伴い機械や工具に不慣れた学生が増加し、かつてない不安全状態や行動が目立つようになったことから対策が急務となった。

委員設置にあたっては同学科全教員にアンケートを実施し、安全上の問題を洗い出した。結果を踏まえ、左記の2点を目的として2017年に委員会を設置し、活動を続けている。

実工学教育センターの石井治実助手が具体例として「安全の手引き」制作、新入生対象安全講習、同センター設備利用講習、研究室の巡回・相互点検などの事例を紹介した。今年度から、学生による安全活動の推進役

として研究室毎に学生安全委員を任命。安全活動ミーティングや研修を通じて、研究室間での情報共有、自主的な安全活動の計画・実施を担う。一方で、教職員に対しても安全研修を行い、「学生がケガをさせない」「学生がケガをさせない」ための役割と責任を明確化している。

安全に関する情報の共有化、活動の見える化 「安全」は多くの人が関心をもち、意識する環境づくりが大切である。学科

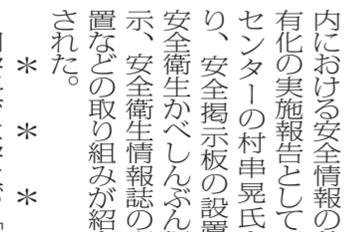
冒頭、機械工学科の中野道王教授が安全委員会設置の背景と経緯について説明。普通科出身者の入学増加に伴い機械や工具に不慣れた学生が増加し、かつてない不安全状態や行動が目立つようになったことから対策が急務となった。

委員設置にあたっては同学科全教員にアンケートを実施し、安全上の問題を洗い出した。結果を踏まえ、左記の2点を目的として2017年に委員会を設置し、活動を続けている。

実工学教育センターの石井治実助手が具体例として「安全の手引き」制作、新入生対象安全講習、同センター設備利用講習、研究室の巡回・相互点検などの事例を紹介した。今年度から、学生による安全活動の推進役

として研究室毎に学生安全委員を任命。安全活動ミーティングや研修を通じて、研究室間での情報共有、自主的な安全活動の計画・実施を担う。一方で、教職員に対しても安全研修を行い、「学生がケガをさせない」「学生がケガをさせない」ための役割と責任を明確化している。

安全に関する情報の共有化、活動の見える化 「安全」は多くの人が関心をもち、意識する環境づくりが大切である。学科



学生安全委員が参加した「KYT：危険予知訓練」



試験会場となる本館教室

安全教育の日講演会開催報告(1面からのつづき)

機械工学科安全委員会の取り組み 学生にケガをさせないための安全教育

冒頭、機械工学科の中野道王教授が安全委員会設置の背景と経緯について説明。普通科出身者の入学増加に伴い機械や工具に不慣れた学生が増加し、かつてない不安全状態や行動が目立つようになったことから対策が急務となった。

委員設置にあたっては同学科全教員にアンケートを実施し、安全上の問題を洗い出した。結果を踏まえ、左記の2点を目的として2017年に委員会を設置し、活動を続けている。

実工学教育センターの石井治実助手が具体例として「安全の手引き」制作、新入生対象安全講習、同センター設備利用講習、研究室の巡回・相互点検などの事例を紹介した。今年度から、学生による安全活動の推進役

冒頭、機械工学科の中野道王教授が安全委員会設置の背景と経緯について説明。普通科出身者の入学増加に伴い機械や工具に不慣れた学生が増加し、かつてない不安全状態や行動が目立つようになったことから対策が急務となった。

委員設置にあたっては同学科全教員にアンケートを実施し、安全上の問題を洗い出した。結果を踏まえ、左記の2点を目的として2017年に委員会を設置し、活動を続けている。

実工学教育センターの石井治実助手が具体例として「安全の手引き」制作、新入生対象安全講習、同センター設備利用講習、研究室の巡回・相互点検などの事例を紹介した。今年度から、学生による安全活動の推進役

として研究室毎に学生安全委員を任命。安全活動ミーティングや研修を通じて、研究室間での情報共有、自主的な安全活動の計画・実施を担う。一方で、教職員に対しても安全研修を行い、「学生がケガをさせない」「学生がケガをさせない」ための役割と責任を明確化している。

安全に関する情報の共有化、活動の見える化 「安全」は多くの人が関心をもち、意識する環境づくりが大切である。学科

安全に関する情報の共有化、活動の見える化 「安全」は多くの人が関心をもち、意識する環境づくりが大切である。学科